



トロフィーを手にした入賞者

19年度最後の行事として、ボウリングの集いが行われました。

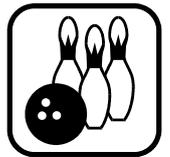
会を重ねることに手順は慣れたもの。参加者は自分の番が来てスムーズにゲームを楽しみました。

ゲームの後はコミュニティ室にて食事と表彰式を。ダントツ高得点の相沢明さんは、昨年優勝ということで今回は辞退を。岡野光男さんが繰り上がり優勝ということになりました。岡野さんは第一回にも優勝されており、おめでとございます。

参加者は23名でした。

### 第9回ボウリング大会

日時：3月6日(木)  
場所：サプラハローズガーデン



車椅子でもスライダーで安心

ボウリングの場合、バスの手配・トロフィー購入・レーンの組合せを考えたりなどの準備作業が結構大変なので、数少ない会の自主行事でもありますので、役員さん頑張りました。

また、水戸から県の福祉バスを出していただきました。ありがとうございます。

成績  
優勝：岡野 光男さん  
準優勝：葛屋 傑さん  
3位：飯泉 清さん  
B賞：直井えつ子さん

### 助け合つこと

森の里 山口 万綾

例えば自分の手や足が動かなくなったら、例えば、口が動かなくて何も話す事ができなくなったら。

必ず私は助けを求めるでしょう。表面では、「大丈夫！一人できるよ」

そう言いますが心の中では助けを求めます。前の私だったら、多分そうでした。人に助けてもらう事を恥ずかしいと思っていたと思います。ボランティアをやらなければ。

小学校三年生から始めたボランティア。やっぱり最初は、何も意識せず、ただの手伝いとか、親の付きそいとかが、そんな風に思ってたボランティアをしてきました。

正直、障害のある人に対して、多少のためらいなどありました。言葉が通じなくて、イライラしたり、子供だからと、なかなか相手にしてもらえなかったり。

でも、だんだん成長するにつれて、ボランティアに対して、真っ直ぐ向き合うことができるようになりました。

私のような、体に不自由のない人間は、楽しかったら「楽しい」とか、嬉しかったら「嬉しい」と声を出して表現することができま。それが当たり前、そんなの普通。そう思っているから。

でも、脳に障害をもったりしたら、そんな普通と思っていることができないんです。だから、満面の笑顔や、出しきれる声で気持ちを表現する。そんな難しい事をして、

生きている。見てると、まるで障害なんてない。そんな気持ちで日々を過ごしているように見えるんです。

私は、「強いなあ」「すてきななあ」心からそう思いました。そう思う度に、ボランティアへのやりがいを感じます。

その障害のある人達にしか表現できない明るさを見る度に思うんです。べつに善行賞をもらったからではなく、ボランティアをしないと分らない、やりがい。

私は、その人達の笑顔に何度助けられたか分かりません。元気もなく、動く気力もない時に、その人達のはしゃぐ声や、笑顔を見ると、元気になってしまふんです。

私は、ボランティアをしているのに、助ける活動をしているのに何をやっているんだらうと思つた事もあります。でもそれは違うんです。

ボランティアは、人を助けるんじゃない、人と人が助け合ふんです。一人で歩くのではなく、二人、三人、四人と、人と人で歩くんです。共に生きるために。

ボランティアをやっている自分が、私は好きです。ほこりに思います。

また、世間では子供扱いされる私でも、仕事とは少し違うけれど、大人がよく言葉にする「仕事のやりがい」分かる気がします。

山口万綾さんは準会員立川さんのお孫さんです。現在中学校3年生です。

